

## 感染拡大防止と子ども達への対応

倉部 光世 (市民ネット)



新型コロナウイルス対応の主に学校教育についての反省と今後について伺う。

◎ 新型コロナ、子ども達への対応の反省、改善点は。

▲ 学校では丁寧な情報提供に心がけた。休業延長で教育課程の組替え作業や学校再開準備を繰り返しするため、非常時の組織的な対応力が向上した。見守りの必要な家庭には各部署が連携して見守る体制を取った。対応について検証し、これからに備える。

◎ 休業による今後の学習の遅れへの対応は。来年度への影響は。

▲ 夏休みを12日間に短縮したことで、現計画どおり教育活動を進められれば来年度への影響はない。行事の多くは2学期以降に延期。

◎ 中学校でのオンライン授業の生徒、先生方からの感想は。機器の保有状況、不登校などの児童生徒への活用は。一人一台機器の配備の必要性は。



中学校でのタブレットを活用した授業のようす (平成28年12月)

▲ 生徒からは分かりやすい、自分のペースで学習ができた等、肯定的な感想が多い。先生方も学校の枠を越えた授業研究が進み、動画撮影、編集等の技術の習得と教師力の向上の成果があった。中学生でインターネット環境が全くない家庭は3%。国の補助金が前倒しされたことを受け現在、整備について検討中。

◎ 地区センター等公共施設へのインターネット環境の整備の必要性は。

▲ 設置場所や必要経費を調査し、設置を検討していく。

## これからの農業

水野 貞幸 (みどり21)



政府の「食料・農業・農村基本計画」が令和2年3月31日に閣議決定され、日本の食を安定させるため「農業の担い手として、中小規模の家族経営も位置付けた」という。農業・茶業に難問がある中で、少しでも前進するように質問する。

◎ 基本計画の策定で、菊川市にプラスになることは何か。

▲ 中小・家族経営など多様な経営体へ支援制度の拡充を期待しており、引き続き情報収集に努める。農業の持続的な発展、経営の継承、多様な人材の活躍が見込まれる。

◎ 農業の6次産業化について、最適な施策は何か。

▲ 農畜産物の生産と食品加工・流通販売を複合的に行うことで、所得向上・安定が期待される。具体的な相談事例はないが、必要な施策を検討する。また、地産地消の推進に努める。

◎ 日本農業賞の菊川市での受賞実績と、エントリは効果が期待できるが、取組みは。

▲ 農業経営、技術向上に意欲的な取組みを表彰するもので、平成28年度に遠州夢咲農協トマト委員会を受賞し、評価が高まった。様々な支援をすることで応募や受賞につながって欲しいと考えている。

◎ 市民協働宣伝事業の市外へ新茶10万円以上を贈答する方に、5%程度の飲み茶を還元することで情報収集と消費拡大策を図っては。

▲ 市民の販売増加への貢献は、生産者にとって心強く、大変感謝している。課題があるが、新たな販路開拓は重要であり研究する。



茶摘み風景